

富山県中山間地域創生総合戦略検討会 議事概要

○日時

令和6年3月12日（火）11:00～12:00

○会場

富山県民会館 302号室、オンライン

○議事

- (1) 本県中山間地域の現状、県民の意識等について
- (2) 現行戦略で挙げている施策の進捗状況について
- (3) 次期戦略策定に向けたスケジュールについて

【議事概要】

（西村座長）

事務局の説明を踏まえて、委員の皆様には、次期戦略の方向性や今後の中山間地域の振興施策などについて、自由にご意見、ご提言をいただきたい。

（佐藤委員）

地域に想いを持つ30～40代を代弁する気持ちでお話したい。

人口減少と担い手不足、次のリーダーとなる人材の不足が資料からも、実際の肌感覚からも実感している。還暦以上の世代の方々が地域のハンドルを握っている限り、中山間地域の抱える問題は解決しないという喪失感を抱いている。

一方で、若者の新しい視点と地域の上の方の理解が掛け合わさると、スピード感のある成功に繋がるという期待と確信が心の片隅にある。地域の重鎮の方々は、地域が前に進むときに立ちはだかる壁にもなるが、同じ方向を向いてくださると強力な味方にもなりうる存在だ。

東日本大震災では、復興の格差が生まれた中で、女川町は復興のトップランナーだと言われるようになった。なぜかという、被災から1ヶ月後の2011年4月の町内のあらゆるセクターの方が60人ぐらい集まった復興協議会の場で会長となる方がこんな話をされた。

「今日、復興協議会を発足して自分は会長を務めるが、復興に10年、まちづくりの成果がわかるのに10年かかる。だから、20年後に責任が取れる、30代40代にまちづくりを任せて、自分を含めた還暦以上は全員顧問になって口を出さない。20年後に生きていないかわからない我々が復興をしてもたかがしれているし責任も持てない。だから20年後に生きている若者たちがやりなさい。君たちが企画やイベントで資金が必要なら金策もするし、世間から何か言われれば、弾除けにもなる。だからお前らがやれ」と言ってくださった。

中山間地域もじわじわと押し寄せた波にのまれて、被災後に近い状態になっているのではないか。目先の3年後5年後のことを見据えていても何も地域は動かない。20年後に責任を持てる30代40代に地域を変えていくチャンスを与えて欲しいと思っている。労働人口が減っていく中で、子育てや仕事に追われる若者が地域のために時間を割くことができるよう、個別の有給休暇の制度、手当が必要かもしれないし、従来ある組織の見直しも必要かもしれ

ない。還暦以上の方への丁寧な説明も必要かもしれない。

次期戦略では、どうしたら子育て世代が地域に関わっていくことができるのか、それを重鎮の方々が応援できる体制になるのか、30代40代が話し合い、県に提言できる場を第一歩目として作っていただきたい。

(弓野委員)

私は朝日町で仲間づくりをしながら、20年間、地元産にこだわった加工品づくりをしている。

ここ2、3年、中山間地域の仕方ないことだと思うが、イノシシや猿に大変困っている。ミョウガを一生懸命作っていた方はイノシシに全部荒らされてミョウガが全く収穫できないとか、最近では秋野菜の大根も猿が集団で来て全部持っていったとか、そういう話ばかりで、地元産には頼れない状況が来ている。電気柵をしているが、猿やイノシシは電気柵を無視して来る。鳥獣被害が一番の頭を悩ます種となっている。

鳥獣被害については仲間とも話し合っている。どうしようもないので共存していくしかないのではないか、ただ山の中に食べるものがなくなったから里に出てくるのだから、山の中に何か食べるものを植えるなど今からでも(対策は)間に合うのではないか、80歳のおばあちゃんたちの意見として出てきている。鳥獣被害を止めるにはどうしたらいいかということ、もう少しみんなで真剣に考えていくべきではないか。

また、私たちも高齢化して、平均年齢が大体88歳という中で頑張っている。若い人たちに頼りたいし、若い人たちにいろいろなことをお願いしていきたいと思うが、それだけの資金がないし若い人たちを雇う力がない。

そういう中で、ここ3年間ぐらい、農業分野で活動している地域おこし協力隊が、11月ぐらいから農業の作業がないということで、冬の間だけうちの会社に来て助けてくれている。もちろん無料で助けてもらっているわけではないが、働くだけではなく、いろいろなことをアドバイスしてくれる。特に県外から来ている方たちが、いろいろなことをアドバイスしてくれて、例えば、おはぎや草団子を作るが、何十年続けてきて、地元の人たちも飽きてあまり売れなくなってきているなか、これはこういうふうにした方が消費者にも受けるんじゃないですかというアドバイスをしてくれる。今、地域おこし協力隊の皆さんのおかげで会社も少し活気づいてきている。

(宅見委員)

(委員名簿には)一般社団法人富山県ケーブルテレビ協議会となっているが、会社としてはトナミ衛星通信テレビと言い、砺波、南砺、小矢部でケーブルテレビを営んでいる。

私はDXの分野でお呼びいただいているので、1点目は、DXやICT利活用についてお話する。

鳥獣害対策について、資料2-1の5ページ目のところにもあるとおり、県のいろいろなところで実験的にICTを活用した鳥獣害対策を実施しているが、継続的に取り組む資金がないという課題に直面している。

またDX、ICTには、根本的に問題を解決するというアプローチと、支える方々が少しでも楽になるようにやり方を変えていくという2種類がある。

ともするとDX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉は何となく大幅に改革していくことと思われがちだが、大事なことは、例えば、ちょっとしたICTの改善で、担い手4人でやっていたことが2人でできるようになったとか、これは経済合理性、お金の面でも安く上がる。このような工夫を我々はしていく必要があるのではないかと考えている。

ICTの使い方というのは、地域で一生懸命に活動している皆さんがベースにあって、それを支える道具という位置付けでとらえ方を変えて、取り組み方を変えていかないとけないと思う。

2点目は、戦略を今後どう進めるかについてお話する。

私たちもいろいろな地域の若手との交流があり、やる気のある方も溢れている。それをどう取りまとめて活動につなげていくかということが大事だと思っている。（地域の）10年後20年後を自分ごととしてとらえている世代の方を巻き込んでいく必要がある。

また、戦略には網羅的にいろいろなことが書かれているが、優先順位とか、難易度とか、解決できたら最大効果が見込めるなど、交通の問題も林業の問題も農業の問題もおそらくバラバラで切り離れた課題ではないと思う。戦略の中でどういうふうに連携させて優先順位を決めてやっていくかということが必要ではないかと思う。

（宮田委員）

中山間地域に関しては、内部の視点、すでに長い間住んでいらっしゃる住民の方の視点は、どちらかといえば、昔と違うとか、他の地域と比べてインフラなどの部分で劣っているから駄目なんだ、というお話が多い。そのため、要望としては、他と同じようにして欲しい、「同レベル」を求められることが多いような印象を私は受けている。

ただ、中山間地域の魅力というのは、豊かな自然というところもあるが、インフラがないからこそゆったりとした時間が過ごせる部分だったり、農産物が豊かであるという部分だったりではないかと思う。そういうところはやはり外部の視点が入ったときに、その魅力が最大限に発揮されるのではないかと。地域おこし協力隊やUターンの方で、特に若い世代、ないしは企業の誘致に重点を置かれるのが一番良いのではないかと。思う。

ただ、若い世代の移住となるとどうしても学校や仕事があるのかということがメインになってくるし、企業ではネット環境が整っているかということも問題になってくると思う。

また、すごく言いづらいところではあるが、実際に若い世代と企業の誘致をしたところで、受け身的な感じが入ってこられたり、いざとなれば撤退できたりということがデメリットとしてあると思う。そこを何とか解決できる方法を含めた外部の視点の取り入れ方を考えていけばいいのではないかと考えている。

（稲垣委員）

私からは大きく2点、お話する。

1点目は、県政世論調査に関して、大変興味深く拝見をした。

令和元年度と5年度を比べると、(中山間地域は)自然や景色が魅力で、伝統文化だとか人や人情は魅力が減っている。これはもしかしたら県民の方々の中山間地域に対する無関心化が進んでいるのではないかと懸念をした。

一方で、若者の意識の変化という点で、若い方が関心を持っている、回答数が少ないので何とも言いようがないが、そういった意識の変化もとらえられている。一方、自治振興会の方からはやはり担い手不足が課題だという話がある。こういう中で少し突飛なことを申し上げるかもしれないが、県内での関係人口について少し考えていただくといいのかなと思う。いわゆる都心部に住む方が県内の中山間地域に関心を持つこと、あるいはそういった中で担い手になっていくこともあるだろうし、街の方が中山間地域で人の役に立つとか、地域に誇りを持つというのが、富山県が言うウェルビーイングに繋がっていくのではないかと考えている。

次に2点目、若者の意識が変わってきているという点で、移住のお手伝いをしているが、まさしくそのとおりで、中山間地域を目指す方も大変多くいる。そういった方の関心はやはり教育の問題、子育ての問題で、学校の問題は非常に大きいと思っている。一方で移住の取り組みや地域づくりをやっているけれども、学校の統廃合が進んでいる。いわゆるアクセルとブレーキを両方踏んでいる。中山間地域に移住して自然豊かなところで教育したいというニーズに答えられているのかについて、富山県ではどうなのか確認する必要がある。

もう1点、教育については高等教育の無償化みたいなこともお考えいただけないか。というのも中山間地域で若い人たちが生活するにあたり、ある意味ストック、家があって畑があって田んぼがあってという中で、収入はそんなになくても暮らせるが、子どもがいざ学校、それも高等教育に行くとなると、一気にキャッシュフローが必要になってくる。そういう中で中山間地域での生活を断念して都市部に戻られた方も聞いている。いきなり全国というのは難しいかもしれないが、富山県内の例えば県立大学ぐらいで、そういった支援をご検討いただくなんてこともあろうかと思う。

(金子委員)

地域の話し合い促進事業に関わらせていただいているが、地区ビジョンづくりの4~5回のワークショップを行うことによって地域の空気が変わっていくのを直に感じている。課題ごとに個別の支援を手厚くすることも重要だと思うが、行政の予算に限られる今、地域が自らの力で変化し続けていく力を授ける施策として高く評価したいと思う。今後の課題はビジョン策定が終わった地区が立ち止まらないようにフォローアップし、モチベートし続けることかと思う。

また、地域づくりの推進と支援には地域ごとの取り組みの個別最適化が求められるが、個別最適化を行う前提として地域の自治力の強化が必要不可欠である。自治力のない地域にどのような施策を投じたところで効果は限定的だし、そもそも何が自分たちの地域に合っているのかを選択する力がないということになる。資料2-1の4ページに「自治のあり方の見直しが必要」との記載があるが、その文脈の中に地域自治力および地域経営力の強化、という視点を加えた戦略を構築していくとよいと考える。

(西村座長)

それぞれの委員の先生方からは、すごく建設的なご意見をいただいているので、ぜひ次の計画に反映していただきたいと思う。

(事務局)

委員の皆様本日は誠にありがとうございました。

県では中山間地域創生総合戦略を立てているが、やはり個々具体的なことになるとう非常に迷うことが多いと思っている。

少し前、コロナで4年間ほどなかなか通常の生活ができないということもあり、その間に人々の意識も結構変わったのではないかとと思っている。そうした中で、今日も意見をいただいたが、若い人たちの意見をどう反映させていくかが非常に大事ではないかとと思っている。

D×の使い方、ともすると大変革をするためにD×使おうとするが、少しの改善で結構住んでいる人が良くなる、楽になるというところにも、ぜひたくさん活用していきたいと思う。

関係人口の増加では、県でも今、新田知事のもとで関係人口1000万人目指そうということで努力をしている。まだちょっと1000万人にはなかなか遠いが、目標を高く持ってしっかり努めていって、その関係人口の方が中山間地域でも活躍してもらえる、あるいはちょっと中山間地域に来て時間を過ごしてもらえる、そういう状況を作っていきたいと思っている。

来年度3回会議を開かせていただいて、次期戦略を策定したい。